

# 医療 史跡

## ミュンヘンとギーセン

### ●ミュンヘン

レントゲン (Wilhelm Conrad Röntgen : 1845~1923年) は、1900年4月にミュンヘン大学物理学教室主任教授に任命された。翌1901年、ノーベル賞が初めて制定された際、最初の物理学賞がレントゲンに授与された。しかしミュンヘンに来てから最愛の妻ベルタが病気がちになり、本欄2015年1月号で紹介したビュルツブルグに比べ、レントゲン夫妻にとってミュンヘンは寂しい土地であった<sup>1)</sup>。

1914年8月、ドイツは第1次世界大戦に突入し、レントゲンもドイツに忠誠を誓い、X線発見の功により各国から贈られた金銀などの賞牌なども供出した。ただこのときの唯一の救いは、X線が多くの戦傷者の診断に役立ち、たくさんの人命が救われたことである。敗戦という暗い現実の中、47年にわたる二人三脚は終わりを告げ、1919年10月最愛のベルタ夫人が亡くなり、レントゲンも1923年2月10日、静かに息を引き取った。

レントゲン終焉の建物が今も残されている。ドイツの街並みは歴史上の人物名で示されており、マリア・テレジア (Maria-Theresia) 通り11番地に、当世風の3階建の明るい褐色のレンガ造りの立派な住居である。山崎岐男

は「レントゲンは体重も減少してきて、歩く姿にも覇気がなくなってきたが、近くの公園までの短時間の散歩の日課だけは欠かさなかった。いつも公園の中にある滝のところのベンチで腰を下ろして休憩した。」と1923年1月の箇所ですべて



写真1 レントゲンの記念碑



写真2 レントゲンの墓 (ギーセン)

いる<sup>2)</sup>。マリア・テレジア通りに近い公園を散歩すると、杖に頼る老躯が現れる気がする。

### ●ギーセン

ギーセンはフランクフルト中央駅から40分の静かな学園都市で、レントゲンが1879~1888年までギーセン大学物理学教授として過ごした当時の校舎が今も残っている。ギーセン駅前から旧墓地 (Alter Friedhof) に向かう途中にある Berliner Platz の案内所の真向かいに、Röntgen の“r”を造型して光線を鉄塊を斜めに貫いた形の記念碑がある。台座には、レントゲンのレリーフがあり、極めて印象的で、レントゲンの碩学を讃えている印象的な記念碑である (写真1)。旧墓地に入り、案内板に従って墓地内を歩くとレントゲン博士のお墓に到達する。お墓は立派で、レントゲン博士夫妻と父母が葬られている。美しい花で飾られた清楚な居すまいの中、しばし物思いにふけても静寂を破るのは鳥のさえずりだけである (写真2)。

レントゲンの葬儀に際し、枢密顧問官ミュラー教授が、「病める人のために故人が成就した仕事は高く評価され、その名は永久に消えることはないであろう」と、その業績を讃えた<sup>2)</sup>。

### ■ 参考資料 ■

- 1) 諸澄邦彦, ビュルツブルグ大学, *Isotope News*, No.729, 41 (2015)
- 2) 山崎岐男, X線の発見者レントゲンの生涯, 考古堂 (1989)

〔日本診療放射線技師会 諸澄邦彦〕